

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

令和5年3月

京都光華女子大学

京都光華女子大学 京都光華女子大学院
教職課程認定学部・学科一覧

こども教育学部

こども教育学科

幼稚園教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状

健康科学部

健康栄養学科

管理栄養士専攻

栄養教諭一種免許状

健康スポーツ栄養専攻

栄養教諭二種免許状

中学校教諭一種免許状（保健体育）

高等学校教諭一種免許状（保健体育）

看護学科

養護教諭一種免許状

養護教諭二種免許状

心理学研究科

臨床心理学専攻

高等学校教諭 専修免許状（公民）

大学としての全体評価

教育職員免許法令改正により、教職課程の自己点検評価が義務化された。これに伴い本学においても全国私立大学教職課程協会のガイドラインに沿った「教職課程自己点検評価基準」を基に評価基準を策定し、3つの基準領域枠組みを設置した。それは、基準領域1（教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み）、基準領域2（学生の確保・指導・キャリア支援）、基準領域3（適切な教職課程カリキュラム）からなる。それぞれの基準領域には、さらに2つの小項目が用意されている。

基準領域1の小項目1-1は教職課程に対する目的・目標の共有がなされているかどうかをチェックするものである。本学においては教員養成理念、到達目標達成のためのカリキュラムと実施体制はWebページで公開され、教職課程教育の目的・目標を目指す教師像と共に学生に周知し、その運営はディプロマポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿う形で展開されている。さらに小項目1-2は、教職課程に関する組織的工夫がなされているかどうかに関するものである。学生による授業評価結果については、概ね肯定的評価が寄せられており、満足度は高いと指摘できる。ディプロマポリシーの達成状況も平均以上であり、小規模大学のメリットを活かし学生一人一人に寄り添った丁寧な指導が行われていると評価できる。教員側も授業評価結果を学生側にフィードバックし、その結果は全学的な自己点検・評価にも活用されている。今後の課題としては、教職課程を設置する全ての学部当事者意識をもってもらうと同時に、如何に教職・保育職教職委員会と教職・保育職支援センターによる効果的な教職課程マネジメントを促進するのかという事である。

基準領域2の小項目2-1は、教職を担うべき適切な人材（学生）の確保に関する事である。本学では、入学直後に新入生対象の教職課程ガイダンスを実施し、適切な人材を確保すべく適切な情報提供と指導を実施している。教育実習についても、資格認定基準を設け、教育実習を行うに相応しい人材（学生）の確保に努めている。課題としては、単にICT機器を指導に取り入れるだけではなく、同時に教材分析能力、授業実施に伴う表現技術の向上も図る必要がある。小項目2-2は教職へのキャリア支援についてであるが、教職・保育職支援センターにおいて総合的なキャリア支援プログラムが展開され、そうした施策が奏功し、教職就労者数も年々向上する傾向が見られる。他方、保健体育教諭、栄養教諭、養護教諭の就職者の増加が課題である。

次に基準領域3-1の小項目3-1は、教職課程カリキュラムの編成・実施であるが、丁寧なシラバスの提示、履修指導体制が整っており、学生の就学意欲を高める工夫がなされている。たとえば新しい教育手法（アクティブ・ラーニング、グループワーク等）を導入し、課題発見・解決能力の向上を図っている。また成績評価基準も明示し、学習成果の把握・可視化に努めている。

こうした点については特に評価できる。小項目3-2は、実践的指導力養成と地域との連携であるが、i) 地域の教育委員会主催の「教師塾」への参加、ii) インターンシップ、ボランティア活動への参加等の機会を設け、多様な経験の蓄積、主体性の喚起、課題意識の啓発を行い所期の目的の達成を図っている。また、光華独自の教育手法としての教育・指導法（光華メソッド）の確立を目指し、英語教育の工夫、教育アプリ（ロイロノート）、ICT機器の活用等を推進している点も評価できる。また併設校との連携協力による効果的な教育実習や、教育指導法の研究開発推進を図っている点も評価できる。令和4年度からは学生の学習ニーズの多様化、高度化に応答するため京都連合教職大学院に参加し、卒業生の進路選択の多様化と高度化に寄与貢献している。

コロナ禍の中、学生募集面での苦戦、入学者の減少、「ブラック」といった教職イメージの定着等のマイナス要因が見られる中で、教職の魅力について発信し教職を志願する真摯な学生を如何に獲得するかを検討しなければならない。他方、本学の依って立つ基本としての仏教精神（寄り添いの心）に基づく教職課程の効果的運営を図ることも肝要である。

最後に、本学の教職課程の今後の発展と充実を願うと共に、教職・保育職委員会、教職・保育職支援センターの活動を通じ、本学の教職・保育職志願学生の支援に邁進して頂いている先生方と事務職員の皆さんに心からの御礼を申し上げたい。

京都光華女子大学

学長 高見 茂

目次

I	教職課程の現状及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
II	基準領域ごとの自己点検評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み・・	P. 2
	（1）基準項目1－1 教職課程教育に対する目的・目標を共有	
	（2）基準項目1－2 教職課程に関する組織的工夫	
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援・・・・・・・・・・	P. 5
	（1）基準項目2－1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保	
	（2）基準項目2－2 教職へのキャリア支援	
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム・・・・・・・・・・	P. 10
	（1）基準項目3－1 教職課程カリキュラムの編成・実施	
	（2）基準項目3－2 実践的指導力育成と地域との連携	
III	今後の教職課程教育・運営の課題（総合評価）・・・・・・・・	P. 14
IV	教職課程自己点検評価報告書作成プロセス・・・・・・・・	P. 15
V	現状基礎データ票・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 18

I 教職課程の現状及び特色

1. 現状

(1) 大学名：京都光華女子大学

(2) 所在地：京都市右京区西京極葛野町38

(3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：こども教育学部（こども教育学科）教職課程履修237名／学部全体237名

健康科学部（健康栄養学科 看護学科）教職課程履修142名／学科全体836名

心理学研究科（臨床心理学専攻）教職課程履修0人／研究科全体15名

教員数：こども教育学部（こども教育学科）

教職課程科目（教職・教科とも）担当17名／学部全体17名（専任教員）

健康科学部（健康栄養学科 看護学科）

教職課程科目（教職・教科とも）担当24名／学科全体46名（専任教員）

2. 特色

・大学の理念・目的は、学則で「学校教育法に定める大学として学術を研究教授し、広く文化の進展に寄与するとともに、仏教精神により円満なる人格を涵養し、もって有為なる女性を育成することを目的とする」と明記されている。（資料Ⅰ－2－1）仏教精神により円満なる人格の涵養とは、校訓「真実心」に基づき、仏教精神である智慧と慈悲によって、向上心、潤いの心、感謝の心という光華の心を持つ学生を育成する教育的営みのことである。

・学園創立80周年を機に、人生100年時代、超スマート社会に対応できる光華教育をさらに発展させるため、2019(令和元)年3月に「光華ビジョン2030」（資料Ⅰ－2－2）が策定された。このビジョンで示された理念や方針を踏まえつつ、理念・目的にそって体系的な教育課程を編成し、事業計画（資料Ⅰ－2－3）のもとに学生の主体的な学びができるよう、建学の精神を具現する教員養成に向けて取り組んでいる。

・教員養成については、①「主体的な人間」、すなわち自己を確立し自ら学ぶことを通じ専攻分野の知識を極めること、②「共に生きる人間」、すなわち他者との共感・共生を通じての人格形成に重点を置いた教育目標を設定している。（資料Ⅰ－2－4）

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料Ⅰ－2－1：京都光華女子大学学則

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/regulations/2022daigaku_gakusoku.pdf

・資料Ⅰ－2－2：光華ビジョン2030

<https://gakuen.koka.ac.jp/koka80th/vision/>

・資料Ⅰ－2－3：事業計画（2022年度）

<https://gakuen.koka.ac.jp/wpgakuen/wp-content/uploads/2022/05/2022%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E8%A8%88%E7%94%BB%E6%9B%B8.pdf>

・資料Ⅰ－2－4：教職課程に関する情報公開URL

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/kyosyokukatei_koukai2022-2.pdf

Ⅱ 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有

[状況説明]

- ・ 本学は、女子大学としての特性を生かし、知性や感性など女性のもつ良さを磨き、品格と人間力を育むことを目的に創設された。将来教員となることを強く希望する学生が、教育の専門職にたるにふさわしい学力を確実に身につけ、「主体的な人間」として、専攻分野の知識に基づき、教育者として必要な幅広い知識や様々な技術を習得すること、同時に「共に生きる人間」として、豊かな人間性を養いその資質を高めるための機会を提供することを目的とする。
- ・ 全学的に養成しようとする教師像として、次のような資質・能力を形成することに努める。
- ① 「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師
- ② 広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師
- ③ 教育職に対する使命と責任を重んじ、児童・生徒を大切にする教師
- ④ 保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりを担える教師
- ⑤ 社会の変化に柔軟に対応しうる教師

[長所・特色]

- ・ 各学科における教員養成理念、到達目標および該当目標を達成するためのカリキュラムと実施体制は、教職課程に関する情報公開Webページに公開されている。(資料Ⅱ-1-1)
- ・ 入学年次から卒業年次まで年次ごとに、教職・保育職支援センターによる教職ガイダンスを行い、免許取得までに必要な手続きや流れについてのほかに、履修カルテの利用方法の説明と合わせて、教職課程教育の目的・目標を目指す教師像とともに学生への周知されている。(資料Ⅱ-1-2)
- ・ 教員養成を主たる目的とする、こども教育学科をはじめ、健康栄養学科、看護学科の各学科において、「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に基づいた「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」に則り、開設する授業科目の改善・改革に継続的に取り組み、教職課程カリキュラムはDP・CPにそって運営されている。(資料Ⅱ-1-3・4)

[取り組み上の課題]

- ・ カリキュラムマップは、ディプロマポリシーの各項目が、具体的にどの科目によって実現されているかを示しており、課題は特になし。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料Ⅱ-1-1：各学科の教員養成の理念と各段階の到達目標

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/kyosyokukatei_koukai2022-2.pdf

- ・ 資料Ⅱ-1-2：教員免許取得までの流れ

- ・ 資料Ⅱ-1-3：大学/各学科の教育目標とカリキュラムの特色(本学の教育目標 URL)

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/policy/h29_kengaku_daigaku.pdf

- ・ 資料Ⅱ-1-4：各学科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとカリキュラムマップ

京都光華女子大学 ディプロマポリシー(学修成果への評価や卒業認定の方針)

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/dp_daigaku2020.pdf

京都光華女子大学 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/cp_daigaku2020.pdf

教育課程を通じて修得できる知識・能力の体系(カリキュラムマップ・カリキュラムフローチャート)

<https://www.koka.ac.jp/introduction/policy.html#curriculumMap>

教育職員免許取得までの流れ（資料Ⅱ－１－２）

1 年

教職ガイダンス参加

・「履修のてびき」の資格の取得ページを参照

必要科目の確認・履修

・1年次に「教職論」（全員）を履修

学年末「履修カルテ」
入力開始・振り返り

・教員免許取得に必要な科目（教科及び教職に関する科目）を「卒業所要単位」とは別に計画的に履修して、それらの単位を修得してください。

・「履修カルテ」は、4年次開設の「教職実践演習」の履修までに入力完了となるよう計画的に入力してってください。

2 年

教職ガイダンス参加

・看護学科は1年生終了時のGPA基準があります。

必要科目の確認・履修

介護等体験ガイダンス

・介護等体験は、小学校もしくは中学校教員免許取得希望者対象です。

7月：キックオフガイダンス 1月：個人申込ガイダンス

学年末「履修カルテ」
入力・振り返り

・学校教育コースは2年生で介護等体験実施(1年生でガイダンス実施)

3 年

教職ガイダンス参加

・教育実習にむけての「内諾ガイダンス」を行います。

必要科目の確認・履修

・「教育実習事前指導」を受けるまでに、教育実習認定基準を満たさなければ、教育実習に参加することができません。

介護等体験

・介護等体験 7日間＝特別支援学校 2日間＋社会福祉施設 5日間

学年末「履修カルテ」
入力・振り返り

・こども教育学部は3年生で教育実習実施

実習期間：幼稚園教育実習 4週間 小学校教諭教育実習 4週間

4 年

教職ガイダンス参加

・教育実習にむけての「事前ガイダンス」を行います。

必要科目の確認・履修

・教員免許申請にむけて履修科目に漏れがないか確認してください。

教育実習

・実習期間： 栄養教育実習 1週間 養護実習 3週間

中学校・高等学校教育実習（保健体育） 3週間

「履修カルテ」入力完了

・「教職実践演習」にて、履修カルテを活用した授業を行いますので、後期開始までに履修カルテを入力完了してください。

教員採用試験 受験

・各対策講座へ積極的に参加してください。

11月 教員免許状取得
申請

・教育免許状の授与は卒業式の日です。栄養教諭は次年度5月頃に自宅へ郵送されてきます。（一括申請の場合）

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

① 教職・保育職委員会

・教務部長、教職課程及び保育職課程を有する各学科の委員、教職科目及び保育職科目担当教員から選出された委員、教職・保育職支援センター長及び副センター長、学生サポートセンター、教職・保育職支援センターを構成員とする。教務部長ならびに教務委員会主催部署と連携しているため、共通教育科目との調整を行うとともに大学執行部とも調整し、教員養成課程についての情報を全学的に共有かつ議論できる組織的な体制を整え、定例会を持つ。（資料Ⅱ-1-5）

・教職・保育職委員会に属する教職科目担当教員は教務委員会へ出席し、教職課程に関する時間割編成・コアカリキュラムへの対応および履修に関する事項について調整を行っている。

② 教職・保育職支援センター

・教育実習等各種実習に関わる事務手続き、教員免許状取得に関わる各種ガイダンス、対策講座、公開模擬試験などの実施を行うと同時に、適宜教員・保育士資格取得に関する相談を受け付けるなど、教職・保育職を目指す学生に個別に対応するための窓口である。

・関係学科と教職・保育職支援センターとが連携し、採用試験の受験対策に特化したさまざまな指導や支援を行う体制で臨んでいる。（資料Ⅱ-1-6）

・毎年実施されている卒業生満足度アンケートにおいて、教職・保育職支援センターの対応についての学生満足度は、「満足」「やや満足」の合計が97.3%（2021年度）と高い。（資料Ⅱ-1-7）

[長所・特色]

・セメスターごとに全授業科目について実施されている授業評価アンケートにおいて、学生による授業評価結果は、肯定的評価「そう思う」「ややそう思う」の合計は、いずれも平均以上であり、授業への満足度は高い。また、ディプロマポリシー達成状況もほぼ平均以上である。学部学科の小規模性を生かし、教育と生活面で学生一人ひとりに寄り添った丁寧な指導が行われているため、学生の生活や授業面での満足度は良好である。（資料Ⅱ-1-8）

・各教員は、授業評価を受けた対応を学生にフィードバックし、また授業評価の集計や総括はFD委員会において行われており、その結果を各学科へフィードバックするとともに全学的な自己点検・評価にも活用されているため連携がとれている。

・教職保育職委員会のなかで、毎回「小さなFD/SD」を実施し、教職員が参加した研修会報告や受講した勉強会の報告を議題の一つとするなど、FD・SDの機会を設けている。

[取り組み上の課題]

・教職課程の全体運営について、教職課程を設置する全ての学部当事者意識をもってもらい、教職・保育職委員会と教職・保育職支援センターによる教職課程マネジメントのさらなる促進。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料Ⅱ-1-5：教職・保育職委員会規程

・資料Ⅱ-1-6：教職・保育職支援センターHP <https://www.koka.ac.jp/careerup/education/teaching.html>

・資料Ⅱ-1-7：卒業生満足度アンケート回答結果

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/satisfaction_2021.pdf

・資料Ⅱ-1-8：IRに係る情報（授業外学習時間調査結果・学生による授業評価結果・ディプロマポリシー達成状況・成績分布状況など）

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/ir_2021.pdf

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

[状況説明]

- ・入学直後に新入生対象の教職課程ガイダンスを実施し、教職課程の履修に関する適切な情報提供と指導を行っている。
- ・毎年度実施の教職ガイダンスをはじめ、各実習段階に応じたサポートや実習後アンケートを通じて、学生が主体的に教職に対する理解を深め、なぜ「教職に就きたいのか」をしっかりと確認し、さらに意識を高める機会を作るような働きかけをしている。（資料Ⅱ-2-1）
- ・健康科学部（健康栄養学科・看護学科）においても多くの学生が教職課程を履修し、令和2年度は計64名、令和3年度は計49名、令和4年度は計60名が1年次の教職科目を履修している。
- ・教育実習内諾手続きを行う前年度までに修得すべき教職科目の単位数を定めたうえで、教育実習資格認定基準を設け、教育実習を行うにふさわしい学生の確保に努めている。（資料Ⅱ-2-2）
- ・学生の学びの形成が確認できる履修カルテの自己点検評価シートにより、本学が養成する教師像に基づき、教師として求められる知識理解や技能、スキル等に関して学生自己到達点と課題を明らかにするための目標到達度を図っている。（資料Ⅱ-2-3）

[長所・特色]

- ・令和3年度の履修カルテ自己点検評価シートの集計結果（資料Ⅱ-2-3）によると、多くの学生が、教職の意義を理解し、使命感・誠意をもって子どもに向かう教師としての資質を身に付け、教職の基礎理論・知識を理解し修得することが出来たと感じている。
- ・学部学科の小規模性を生かし、学生一人ひとりに丁寧な指導をし、自ら学ぶ力を育てられるよう努めており、本学学生は「子どもに対する態度」と「他者意見の受容」について肯定的評価（評価5・4計）が高い。（資料Ⅱ-2-3）
- ・ボランティア活動やインターンシップ、介護等体験、教育実習などで系統的に培った実践力やコミュニケーション力は自信へと繋がっている。

[取り組み上の課題]

- ・肯定的評価（評価5・4計）の割合が比較的低かった項目は、以下3点である。
 - ①「教材分析能力」（こども教育学科57.6%、健康栄養学科60%、看護学科40%）
 - ②「情報機器の活用」（こども教育学科67.9%、健康栄養学科60%、看護学科80%）
 - ③「教科書・学習指導要領」（こども教育学科71.7%、健康栄養学科50%、看護学科80%）である。
- ・看護学科は、看護師養成課程においても実技シーンをタブレットで動画を取り、フィードバックや意見交換をするなど機器に適応できる看護師養成を目指しており、学科科目との系統性がみられる。
- ・その他の学科においても、単にICT機器を指導に取り入れれば情報活用能力が育成され指導が充実するわけではなく、育成すべき資質・能力を見据えた上で、教材分析や授業を行う上での表現技術など各教科間の役割分担を適切に図るよう見直していく。
- ・健康栄養学科および看護学科では学科の専門科目が増加する2年次から教職履修者が減る傾向にある。繋ぎ止めに向けて、1年後期の教職科目終了時に次年度以降の履修指導の機会を設ける。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料Ⅱ-2-1：教育実習に関するアンケート

- ・資料Ⅱ－2－2：2022年度履修のてびき

<https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/risyuu2022-d.pdf>

- ・資料Ⅱ－2－3：京都光華女子大学教職課程「履修カルテ」自己評価シート集計結果

＊令和３年度教育職員免許取得予定者93名に実施（2021年11月実施）

＊こども教育学科78名 健康科学部14名（健康栄養学科９名・看護学科５名）

評価基準：【5】強く思う 【4】そう思う 【3】どちらとも言えない 【2】そう思わない 【1】全くそう思わない

評価項目		【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	【5・4】計
1. 「建学の精神」である真心心を教育理念とした信念のある教師							
1-1. 「主体的な人間」「共に生きる人間」をめざす							
・教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1【教職の意義】	24	67	2	0	0	97.8%
・教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	2【教育の理念・教育史・思想の理解】	10	59	24	0	0	74.1%
・学校(幼児)教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	3【学校教育の社会的・制度的・経営的理解】	12	64	16	1	0	81.7%
1-2. 子どもの主体性や能力を大切に							
・子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	4【心理・発達論的な子ども理解】	20	60	13	0	0	86.0%
・子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	5【公平・受容の態度】	37	53	3	0	0	96.7%
2. 幅広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師							
2-1. 幅広い教養を身につける							
・教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	6【教育課程の構成に関する基礎理論・知識】	12	61	20	0	0	78.4%
・道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	7【道徳教育・特別活動】	13	57	22	1	0	75.2%
・「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。(三免取得希望の学生は回答すること)	8【総合的な学習の時間】	9	31	13	0	0	78.4%
・情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	9【情報機器の活用】	12	51	26	4	0	↓67.7%
・学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。(三免取得希望の学生は回答すること)	10【学習指導法】	9	31	11	1	0	78.4%
2-2. 専門分野の知識を究める							
・これまで履修した各教科に関する指導の内容について理解していますか。	11【教科】	15	62	16	0	0	82.7%
・学習指導要領の内容を理解していますか。	12【教科書・学習指導要領】	12	53	27	1	0	↓69.8%
2-3. 理論を実践へいかそうとする							
・教材を分析することができますか。	13【教材分析能力】	14	39	32	8	0	↓56.9%
・教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。子どもの姿に即した指導計画を立案することができますか。	14【保育・授業構想力】	11	56	24	2	0	72.0%
・指導計画に沿った適切な教材研究や準備ができますか。	15【教材開発力】	12	63	15	3	0	80.6%
・子どもの反応を生かし、皆で協力しながら保育・授業を展開することができますか。	16【保育・授業展開力】	15	59	18	1	0	79.5%
・保育を実践する上での基本的な表現の技術を身につけていますか。板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身につけていますか。	17【表現技術】	10	56	25	2	0	70.9%
・保育を行う場の環境設定、安全・衛生面の配慮をすることができますか。学級経営案を作成することができますか。	18【学級経営力】	16	58	16	3	0	79.5%
3. 教職に対する使命と責任を重んじ、子ども・児童・生徒を大切に							
3-1. 誠意をもって子どもに向かう							
・子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	19【発達段階に対応したコミュニケーション】	31	57	5	0	0	94.6%
・気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。	20【子どもに対する態度】	50	41	2	0	0	97.8%
・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	21【社会人としての基本】	38	47	8	0	0	91.3%
3-2. 子ども一人ひとりに対して愛情をもって理解しようとする。							
・学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	22【学習集団の形成】	10	63	19	1	0	78.4%
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	23【子どもの状況に応じた対応】	16	51	22	4	0	72.0%
4. 保護者・地域と連携した開かれた学校づくりを担う教師							
4-1. 多面的な視点で考える							
・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	24【他者意見の受容】	41	47	5	0	0	94.6%
・他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	25【共同授業実施】	32	48	13	0	0	86.6%
4-2. 必要に応じて他者と共同作業ができる							
・集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	26【他者との連携・協力】	38	43	12	0	0	87.0%
・保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	27【保護者・地域との連携協力】	34	48	9	2	0	88.1%
4-3. リーダーシップを発揮できる							
・集団において、率先して自らの役割を見つたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	28【役割遂行】	23	59	10	1	0	88.1%
5. 社会の変化に柔軟に対応しうる指導力となる教師							
5-1. 現在の諸問題に取り組む姿勢をもつ							
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。	29【教育時事問題】	21	56	15	1	0	82.7%
5-2. 自己研鑽を重ねる努力をする							
・自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	30【課題認識と探求心】	34	52	6	1	0	92.4%

↑

↑

こども 67.9%
健康栄養 60%
看護 80%

こども 71.7%
健康栄養 50%
看護 80%

こども 57.6%
健康栄養 60%
看護 40%

↑

↑

↑

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

(2) 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

[状況説明]

・教職を志す学生に対する組織的なキャリア支援を目的に、教職・保育職支援センターにおいて、教職に就くための各種情報提供や関係する図書を常備し、採用試験の受験対策に特化したさまざまな指導や支援を行っている。また、教職・保育職支援センターのパンフレットを作成し、学生や教職員へそれらを周知している。(資料Ⅱ-2-4)

・各学科においても、採用試験に向けた勉強会や個別指導(面接や模擬保育・模擬授業を設定)を定期的実施し対策を行っている。(資料Ⅱ-2-5)

・支援の際には、計画・実践・評価という一連の活動が繰り返されながら、学生のよりよい成長が展開されるよう心掛けており、教職・保育職への就職状況も良好である。(資料Ⅱ-2-6)

・教職従事者数も徐々に向上しており、2018年度以降の卒業生で教職従事者をリーフレットで紹介することで、大学での学びが進路に繋がっていることを明示している。(資料Ⅱ-2-7)

・卒業後に、講師を続けながら採用試験に合格する者もあり、卒業生への仕事のアドバイスなどを通して、学び続ける教師をサポートしている。

・大学での学びを糧に教員になった人材が、専任・講師を問わずに教育現場での活躍を評価されることが、次につながると考える。

[長所・特色]

・子ども教育学科は学科独自の採用試験対策講座も実施しており、教員採用試験合格率は、一期生33%、五期生69%と、年々向上している。

・健康栄養学科や看護学科については、教職従事者数は漸減しているが、教職課程を履修する学生のなかには、是非とも教員になろうと熱心に努力する学生が毎年一定数いる。(資料Ⅱ-2-8)

[取り組み上の課題]

・教職・保育職支援センターを活用した新たな学びの場づくりと確実な進路保証を目標に、保健体育教諭や栄養教諭、養護教諭の就職者数も増やしていく。

・健康栄養学科および看護学科では、教員免許以外の資格が取得できることもあって、進路に迷いが生じ、教員採用試験対策に出遅れる学生が目立つ。その対策として、教職経験者の教員から教職の魅力を伝えていくとともに、早期からの教員採用試験対策を充実させていく。

・入学後早い段階で、将来的展望を見据えたキャリア形成を意識させ、学生間で互いに高めあえるような環境づくりの工夫。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料Ⅱ-2-4: 教職・保育職支援センターパンフレット・キャリアイベント・対策講座ポスター



・資料Ⅱ-2-5：採用試験模擬面接対策 <https://www.koka.ac.jp/dietitian/news/1688/>

保健体育科教員志望者の実技試験対策 <https://www.koka.ac.jp/dietitian/news/1720/>

・資料Ⅱ-2-6：教員・保育職関係就職者数／教員免許・保育士資格取得者数

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
57.6% (49/85)	71.7% (71/99)	67.2% (76/113)	76.1% (70/92)

・資料Ⅱ-2-7：リーフレット「卒業生のいま」



・資料Ⅱ-2-8：学部・学科ごとの免許・資格取得者数と教員・保育職就職者数

学部・学科	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
こども教育学部 こども教育学科	卒業生数	60	77	79	77
	免許・資格 取得者数	実人数	60	75	77
		幼稚園教諭一種	59	74	77
		小学校教諭一種	24	22	21
		保育士	48	59	66
	教員・保育職就職者数	45	65	65	66
健康科学部 健康栄養学科 管理栄養専攻	卒業生数	82	83	85	82
	免許取得者数	栄養教諭一種	4	1	1
	教員就職者数	0	1	0	0
健康科学部 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻	卒業生数	39	35	41	39
	免許取得者数	実人数	8	7	13
		栄養教諭二種	8	7	4
		中学校教諭一種(保健体育)			9
		高等学校教諭一種(保健体育)			9
	教員就職者数	0	0	3	2
健康科学部 看護学科	卒業生数	97	84	94	79
	免許取得者数	看護教諭教諭一種	13	10	13
	教員就職者数	3	3	0	3
健康科学部 医療福祉学科	卒業生数	16	26	13	14
	資格取得者数	保育士		5	7
	保育職就職者数		1	5	0
健康科学部 心理学科	卒業生数	27	27	23	40
	資格取得者数	保育士		1	2
	保育職就職者数		1	2	0

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[状況説明]

- ・CAP制、履修登録上限単位の緩和、丁寧なシラバスの提示（個々の授業科目の到達目標・内容と方法・授業計画・成績評価基準・使用機器など）、学生一人ひとりに向けて丁寧な履修指導により、学生の意欲を活性化する体制を整えている。（資料Ⅱ-3-1）
- ・教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されており（教職実習室や総合実習室、電子黒板、学生のPC・タブレット必携化及び貸出し、Wi-Fi環境整備など）、アクティブ・ラーニングやグループワークを促す授業工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。
- ・現職教員をゲストスピーカーとして招き、児童や生徒との接し方、教員の職務等、現場の生の声を聴く機会も設け、学校や社会のニーズ、現下の政策問題を踏まえた授業が編成されている。
- ・教職・保育職支援センターにて、教員を目指す学生に対し、履修の仕方、実習の事前・事後指導や教員免許状の申請手続き方法など丁寧に指導するとともに、さまざまな疑問や悩みにも個別に対応している。
- ・教職課程科目や教科指導法に関する科目とそれぞれの教科に関する科目は、教務委員会及び各学科が開講主体となっている。教職・保育職委員会から教職課程担当教員が教務委員会へ出席することにより、相補的に連携し、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成し、学年が進むごとに段階的に履修できるよう編成されている。（資料Ⅱ-3-2）
- ・「履修のてびき」（資料Ⅱ-3-2）にて教育課程編成状況を分かりやすく公開し、また、成績評価基準等について、手引きP.1～2にて明示し学修成果の把握・可視化に努めている。（資料Ⅱ-3-3）
- ・「教育の基礎的理解に関する科目」は1～3年次に、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目」と「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」は2～3年次に、「教育実践に関する科目」は3年後期～4年次に、それぞれ配置している。（資料Ⅱ-3-4）
- ・「履修カルテ」はUNIPAのシステムの中で、毎年自己評価を入力し自身の学びについて確認し、担当教員がコメントを示す仕組みになっている。また4年生の教職実践演習の授業にて活用している。（資料Ⅱ-3-5）

[長所・特色]

- ・学士課程の質保証の流れの中で「学生の主体的な学び」の実現へ向けたFDとして、教育課程の体系化と組織的教育を柱にカリキュラム改革、授業内容・方法の改善、教員の授業実施能力の向上などに取り組んでおり、各学科が議論し、その結果をFD委員会で報告・共有している。（資料Ⅱ-3-6）これを本学では、全学的な学生総合支援策「エンロールメント・マネジメント（EM）」の中に「教育充実策」として位置づけている。（資料Ⅱ-3-7）

[取り組み上の課題]

- ・令和5年度の履修の手引きへ、教職課程科目の共通開講について記載していく。
- ・教職課程の各授業がシラバスに則って適切に運営されているかを点検評価活動していく。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料Ⅱ-3-1：シラバス検索 教育情報の公開>授業>授業科目、授業の方法・内容、年間授業（シラバス検索）

<https://www.koka.ac.jp/introduction/publish.html>

- ・資料Ⅱ－３－２：2022年度履修のてびき

<https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/risyuu2022-d.pdf>

- ・資料Ⅱ－３－３：学修成果、卒業認定（取得可能な学位・必要単位数）

<https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/gakui2022.pdf>

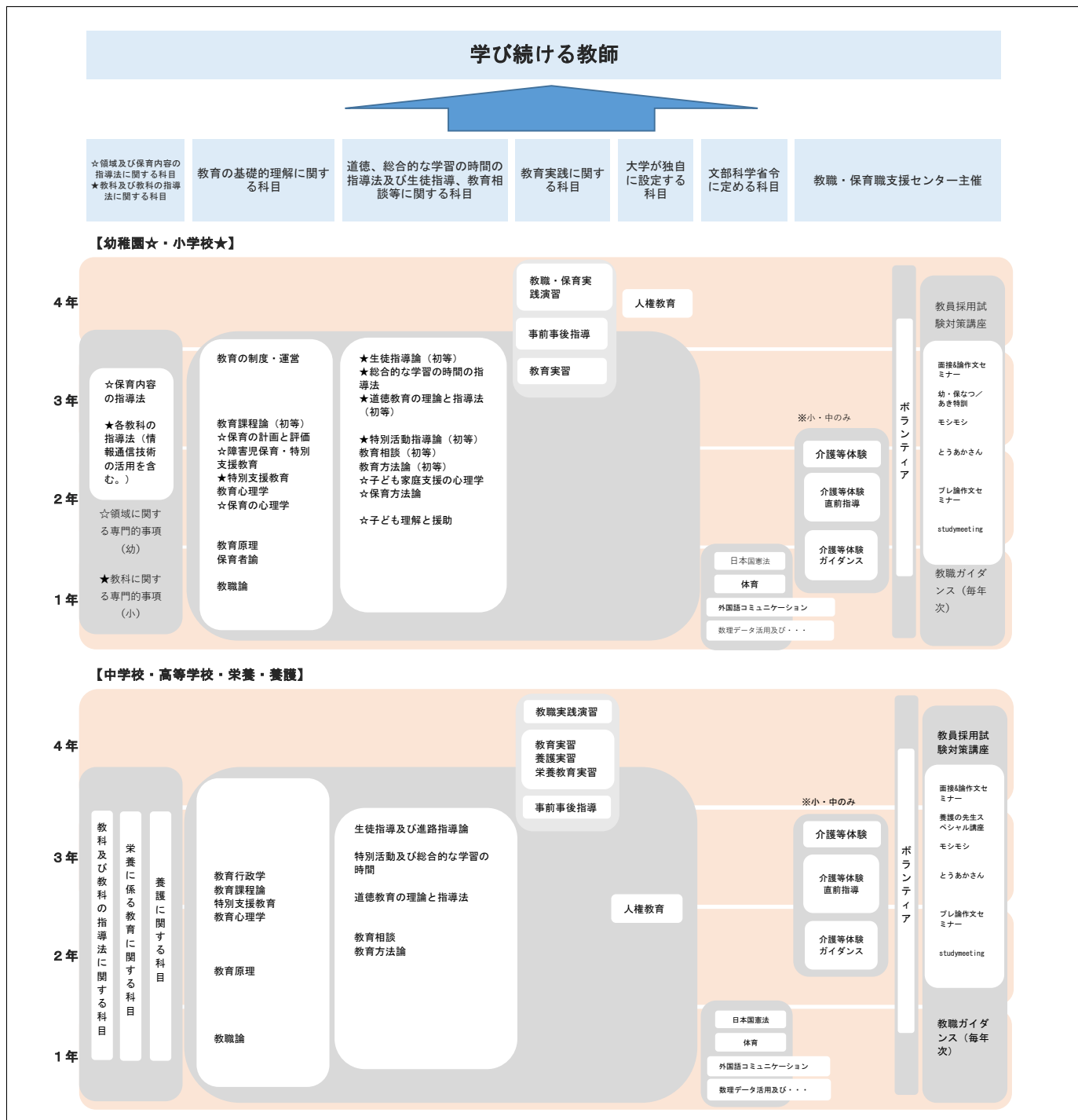
- ・資料Ⅱ－３－４：2022年度入学生の教職課程カリキュラムツリー

- ・資料Ⅱ－３－５：教職課程履修カルテとは・履修カルテ入力マニュアル

- ・資料Ⅱ－３－６：FD委員会資料（2019～2021年度 各学科検討会報告書）

- ・資料Ⅱ－３－７：京都光華のエンロールメント <https://www.koka.ac.jp/campuslife/enrollment.html>

2022年度入学生の教職課程カリキュラムツリー （資料Ⅱ－３－４）



基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[状況説明]

・実践的指導力を育成する機会として、教育実習のほかに、地域の教育委員会と学生ボランティア学校サポート事業について連携協定を締結し、また地域の教育委員会で行われている「教師塾」に参加し、教育的体験の拡大と深化を図っている。（資料Ⅱ-3-6）

・学生の主体的・対話的で深い学びを保障するため、情報検索やレポート作成の指導のほか、発表、共同討議、グループワーク、体験学習、インターンシップ・ボランティア活動等を通して、多様な経験の蓄積や主体性の喚起や課題意識の啓発を促している。

・学生の個人ないしグループでの自主的な学習を奨励しサポートするために全学部・学科の学生が利用可能な学習ステーションおよび学科ごとにコモンズを設置し、学生の利用に供している。

・教職・保育職支援センターが教育実習や介護等体験の充実を図るために実習校や教育委員会、社会福祉協議会との連携を深めながら、全学の教職を目指す学生の履修登録から内定までサポートしている。また、採用試験にむけて教育委員会の担当者から、直接説明を聞く機会を設けている。

・教職員が全国私立大学教職課程研究連絡協議会・日本養護教諭養成大学協議会・全国保育士養成協議会・京都地区大学教職課程協議会、京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会での委員会活動や、協議会が実施する研究会やセミナー等に参加し、最新情報の収集や知識を深める努力を行っている。

[長所・特色]

・効率的な学び・定期的な振り返り・次へつなげる目標設定という学びのサイクルを通して学生一人ひとりの成長を支える本学独自の「光華メソッド」（資料Ⅱ-3-7）と銘打った教育・指導法を確立すべく、学内外他組織との連携として、グローバルな社会やSociety5.0への対応から、伝統文化教育や英語教育やプログラミング教育の充実及びICT機器を活用した教育・QFT（質問駆動型の教育）を使った授業力の向上に努めている。

・併設学校（幼、小、中、高）との連携協力による効果的な教育実習と、英語教育・光華こどもクラブ・KOKA初年次インターン・光華こどもひろば等、教育研究の開発などの推進を図っている。（資料Ⅱ-3-8・9）

・令和4年度からは、学生の教育ニーズの多様化、高度化に 대응するため京都連合教職大学院へ連合校として参加している。令和3年度1名、令和4年度1名が入学。

[取り組み上の課題]

・地域との連携をさらに深めるべく、まちづくり支援事業への参画など近隣の親子が集う場を今後も提供していく。

・非常勤講師や教職課程を担当しない教員との情報共有も行いながら、科目相互の充実をはかる。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料Ⅱ-3-6：教育実習の報告

幼稚園教諭 <https://www.koka.ac.jp/child/news/2993/>

小学校教諭 <https://www.koka.ac.jp/child/news/2986/>

保健体育教諭 <https://www.koka.ac.jp/dietitian/news/1743/>

栄養教諭 <https://www.koka.ac.jp/dietitian/news/1542/>

養護教諭 <https://www.koka.ac.jp/nursing/news/2450/>

・資料Ⅱ-3-7： 光華メソッド

“光華メソッド”は、効率的な学び・定期的な振り返り・次へつなげる目標設定という学びのサイクルを通して学生一人ひとりの成長を支える本学独自の教育手法である。スマホやタブレットなどICT機器を活用した授業活性化や、質問づくりを通して論理的思考を身につける手法「QFT」などを導入。協働学習の中で学生同士の考えを見える化し、議論を深めながら課題解決する力を身につける。またチェックシートで自身の成長を可視化できる振り返りシステムや、次の目標設定や進路実現をサポートする教育環境により、「主体的で深い学び」を促進する。

**本学独自の
教育手法**

光華メソッド

コロナ禍や情報技術の発展により、急速に変化する社会。
この予測不可能な時代において、社会変化に対応し未来を創り出す資質・能力を備えた人材の育成が求められています。
京都光華では、そのために必要な「主体的で深い学び」を促進し、学生の皆さんの成長を支えます。

**学習成果や学習プロセスを確認しながら
学びを深めることで、確かな力を身につけます。**

学習成果が可視化



学生が自身の進捗的な学びを可視化するチャートがあります。自己の学習状況を確認することで、学習期間での成長を把握することができます。

計画的に進めようとする意欲の芽生えは、学習に対する達成感や自信へとつながります。教員からの指導は学生にフィードバック、自身の成長度合い、改善点を見えることが大切です。学生自身も目標設定、教員の授業計画にも即応でき、さらに高い学びを生み出しています。

**ツールと手法を組み合わせて、
少人数教育の強みを最大限に活かした教育を展開します。**

- ICT機器を活用し、お互いの考えを見え易く
- 議論を活かすグループワーク

本学ではPCタブレットが必要となり、授業でもスマートフォンなどの記式機器を活用し、授業の活性化を図っています。他にも、最先端の産官学連携交流や共同研究を推進しています。

—— 授業支援アプリ「ロイノバー」 ——

授業「ロイノバー」を申し込み、ユーザーが所持する端末（PC）から、自分の発表や質疑の質問事項をリアルタイムで提出し、結果確認ができます。学習状況を一通りで把握することができ、学びの定着に役立ちます。

ロイノバーを 使っていること	●教材共有 ●疑問の解消・発見 ●課題共有 ●ポートフォリオ作成 ●プレゼンテーション資料の共有 など
-------------------	---

授業風景

個別学習



学生自身がWebマーケティングを行い、売場となるデジタルショップを開業して、模擬店、その店舗を他店がリアルタイムで観覧できます。各店舗の得意分野を表現することによって、競合の戦略的行動について学ぶことができます。リアルタイムでオンラインショッピング体験も可能になります。これまでに約10万回の学習機会を実現することができました。本学と協働によるユニークな取り組みが可能です。

大規模授業



ビデオレコーダーで授業動画を撮影し、いつでもどこでも視聴できる。自分の授業を振り返ること、他校や業界関係者へ発信することができる。高品質な授業、教材やフィードバックを受け付け、日本最大の公開授業を開催します。授業内容や疑問、ならび、正誤や訂正事項など、コメントやリアクション機能のついた動画で意見を発信しています。

GIFT 異領域への学習手段 (Support Extension Technique)

画期的発想を養う「京大IT学部」に本学、京都府立大学などで活用し、「京大IT学部」の卒業生を中心とした実践型授業を実施しています。異分野との対話を通じて、主体的に「学力や知識のシンクタンク効果」を生み出します。物事に対する賛否両論は様々な立場から展開して見られます。

女性のキャリアを応援した指導方法の開発

令和5年度女子学生の就職状況として「女子向けの教育」の手厚い実施が認められています。女性向け選考会では専攻別企業説明会です。女性として、学生一人ひとりの将来に向けて必要となる「専門知識」に基づいた女子教育手法の開発を進めます。

**学び、振り返りを行った上で、次なる目標を定め、
その目標に向かって学ぶサイクルが学生を成長させます。
目標設定や進路実現をサポートする環境があります。**

自主学習を促進する学習サポート環境

各科目に対応したコンテンツや、学習セッションなど、学生たちの主体的な学びをサポートする施設が揃っています。専門的アドバイザー、キャリアアドバイザー、教員などが相談し、学習目標を設定、意識的に学びを継続する力を促します。



女子大ならではの環境を生かした教育手法に、
学生たちは自身の成長を実感しています

女子大なので、
進路選択と向き
合ってきたことに
満足しています

先生が
学生一人ひとりに
向き合ってくれた
ので大丈夫

同じ夢を目指す
仲間と一緒に
目標達成の経験を
積めたことができた

自分の成長に対する
満足度

92%

※2024年9月3日調査(満足度アンケート)より

光華メソッドの結果は成長満足度をわめ
いろいろな数字に表れています

CHECK MORE >>>

・資料Ⅱ-3-8：教育研究の開発（光華一貫教育の具体的な取り組み）

幼大連携の試み（光華英語教育） <https://www.koka.ac.jp/child/news/3297/>

光華こどもクラブ <https://www.koka.ac.jp/child/news/3049/>

光華こどもひろば <https://www.koka.ac.jp/child/news/3270/>

・資料Ⅱ-3-9：養護実習要項、教育実習ノート

Ⅲ. 今後の教職課程教育・運営の課題（総合評価）

・コロナ禍を契機に、入学者数減という大きな課題に直面しており、学生募集の面で苦戦している現状がある。教員が多忙であるという社会的認識の広まりなどの外的要因もあるなか、本学教職課程を履修する学生は、教員になることを熱望する学生が決して少なくない。教員の魅力についても、発信していく機会をはかる。

・仏教精神(光華の心)に基づく、思いやりの心をもった教育者の養成をめざすため、適切な教育課程を編成し、学生の主体的な学びができるよう、さらに魅力ある教職課程を目指す。

・今後の課題としては以下5点をあげ、本学の教職課程の在り方を組織的に継続して検証する。

- ① 引き続き、教職課程自己点検評価の組織的体制整備や点検サイクルなどの可視化を行う。次年度は、今回みえてきた課題をどう改善していくかについて大学独自の項目を設定し、点検・評価していく。
- ② 各学科および教職課程を担う事務部門との密なる連携を維持・発展し、教員間の情報交換を行い、教職課程を設置する全ての学部が当事者意識をもって、科目相互とそれ以外の学科科目との系統性の充実をはかる。
- ③ 各学年の到達目標達成状況を把握するための「履修カルテ」の活用を促進。
- ④ 育成すべき資質・能力を見据えた上での情報機器の活用。
- ⑤ 教職課程の質向上のために、FDやSDのさらなる取り組み。

・令和4年度においてはホームカミングデーを開催し、教職や保育職に就いた卒業生との繋がりをさらに図るとともに、今現場で行われている小学校英語の最先端を分かりやすく伝えるワークショップを実施し、教職に関するFDの機会とする。（資料Ⅲ－1）

・教職志望の学生への指導支援の成果の見える化を図りながら、教職・保育職委員会を中心に、各部署、学部・学科と教職・保育職支援センターとの有機的な連携を図り、課題に取り組み成果につなげる。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料Ⅲ－1：「学びつづける先生たちのホームカミングデー2022」チラシ

2022年 8/7 (Sun)
徳風館6F 小講堂
13:00～15:00

Home Coming Day

ここにくれば
分かちあえる
仲間がいる。

チーム光華へおかえりなさい

資料Ⅲ-1: 学びつづける先生たちのホームカミングデー2022

当日プログラム (予定)

- 13:00 開演あいさつ
- 13:15 講演①
- 13:45 講演②
- 14:15 交流会

お申し込み方法

◆Web: <http://homecoming.tokai.ac.jp> まで下記情報をお送りください。
【申込】学びつづける先生たちのホームカミングデー
①氏名、②フリガナ、③卒業年次(学部・学科・専攻)、
④所属学部、⑤教職専攻、⑥講演希望(講演①・講演②)、
⑦申込番号、⑧申込日(お申し込みください)を「12月」
◆申込締切: 2022年7月1日(金)
※申込締切を過ぎた場合は、お申し込みできません。
〒416-8601 静岡県静岡市清水区
教職・保育職支援センター 電話: 054-825-5328

1. 教職・保育職支援センターによる自己点検評価実施決定・合意
2021年9月28日 学長戦略推進部・学生サポートセンター・教職保育職支援センター合同SD
2. 教職課程による自己点検評価の目的や基本方針の周知
2021年10月6日 教職・保育職委員会
3. 教職課程自己点検評価のための対象項目についての点検・評価活動の実施依頼
2021年10月6日～2022年2月（情報・データの収集・分析・集約）
4. 各教職課程へ自己点検評価のための対象項目についての点検評価活動の実施依頼
2022年2月9日 教職・保育職委員会（資料Ⅳ－1・2）
5. 実施内容と今後のプロセス報告
2022年2月24日 大学運営会議
6. 自己点検評価内容協議・意見交換（教職課程FD・SD）
2022年3月23日 臨時教職・保育職委員会
7. 教職課程を対象とする自己点検評価報告書（案）協議・修正等
2022年4月13日、5月11日 教職・保育職委員会
8. 大学全体評価（学長）依頼 2022年10月
9. 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会によるピア・レビュー 2023年1～2月
10. 大学自己点検評価委員会審議 大学運営会議承認 2023年2月

令和4年度教職課程自己点検評価報告書公表 2023年3月

・資料Ⅳ－１：本学の内部質保証体制図



2022年2月9日
教職・保育職委員会

教育職員免許法令改正による令和４年度教職課程自己点検評価義務化にむけて

１．教職課程自己点検評価の目的

教職課程の質向上のために、各大学が自らの責任で教職課程の活動について点検・評価を行い、改革・改善に努めるとともに、その結果を社会に公表し、教職課程の質を自ら保証するという内部質保証体制を確立することにある。

評価自体が目的ではなく、評価することにより自大学の教職課程の特徴や長所を確認し、また、改善点を見出すことで質の向上につなげる。教育が良い成果をあげているか、長所や特色をまとめて明るい課題としてとらえ公表したい。

２．教職課程自己点検評価の具体的な進め方

（１）評価基準について

全国私立大学教職課程協会の協会版「教職課程自己点検評価基準」をもとに作成する

（２）教職課程自己点検・評価基準内容＜領域/項目/取り組み観点＞

【基準領域１】教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１ 教職課程教育に対する目的・目標の共有

- ☐ 目的・目標、育成を目指す教員像について教職課程に関わる教育職員が共通理解をしている。
- ☐ 教職課程教育の目的・目標を学生に周知している。
- ☐ 教職課程に関わる情報公開を行っている。
- ☐ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果が具体的に示されている。

基準項目１－２ 教職課程に関する組織的工夫

- ☐ 教職課程の運営に関して全学組織（教職課程支援センターなど）と学部（学科）の教職課程とで適切な役割分担を図っている。
- ☐ 研究者教員と実務家教員及び事務職員との共同体制を構築している。
- ☐ 教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために組織的に機能している。
- ☐ 教職課程の質的向上のためにFD やSD の取り組みを展開している。

【基準領域２】学生の確保・指導・キャリア支援

基準項目２－１ 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

- ☐ 教職を担うにふさわしい学生の募集・ガイダンス・選考等を実施している。
- ☐ 当該教職課程に即した適切な数の履修学生を受け入れている。
- ☐ 教育実習に臨む上での必要な履修要件を設定している。
- ☐ 教職課程を担うにふさわしい学生を受け入れる履修上の基準を設定している。
- ☐ 「履修カルテ」の活用を図っている。
- ☐ 様々な体験活動（ボランティア、インターンシップ、介護等体験等）とその省察の往還の機会を提供している。

基準項目２－２ 教職へのキャリア支援

- ☐ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。
- ☐ 学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を行っている。
- ☐ 学生のニーズの把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。
- ☐ 学生の教職に対する意欲や適性を把握している。
- ☐ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。
- ☐ 教職に就いている卒業生との協力体制を構築している。

【基準領域3】適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

- ☐ 教職課程科目に限らず、卒業単位124単位を活用して、建学の精神等、開放制の教員養成を行う大学としての特色ある教員養成を行っている。
- ☐ 教職課程教育を行う上での施設・設備が適切に整備されている。
- ☐ 学科等の目的を踏まえ、「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の確保を図っている。
- ☐ コアカリキュラムに対応した教職課程のカリキュラムを提供している。
- ☐ 「教職実践演習」の運用上の適切性、履修カルテの活用。

基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

- ☐ 学校や社会のニーズ、政策課題に対応した教育内容の工夫がなされている。
- ☐ 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。
- ☐ 教育委員会等との組織的な連携協力体制を構築している。
- ☐ 教育実習の協力校との連携を図っている。
- ☐ 学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場を設定している。
- ☐ 教育の実現場面に学生が触れる機会を提供している。
- ☐ ICT 機器の活用が教育方法や教科教育法講義で取り上げられ、そのための施設設備も完備している。
- ☐ 学生自身によるアクティブ・ラーニングを促す工夫に取り組んでいる。

3. 作成プロセス

- (1) 教職・保育職支援センターによる自己点検評価実施決定・合意
2021年9月28日 学長戦略推進部・学生サポートセンター・教職保育職支援センター合同SD
- (2) 教職課程による自己点検評価の目的や基本方針の周知
2021年10月6日 教職・保育職委員会
- (3) 教職課程自己点検評価のための対象項目についての点検・評価活動の実施依頼
2021年10月6日～2022年2月（情報・データの収集・分析・集約）
- (4) 各教職課程へ自己点検評価のための対象項目についての点検評価活動の実施依頼
2022年2月9日 教職・保育職委員会
- (5) 実施内容と今後のプロセス報告
- (6) 自己点検評価内容協議・意見交換（教職課程FD・SD）
- (7) 教職課程を対象とする自己点検評価報告書（案）協議・修正等
- (8) 大学全体評価（学長）依頼
- (9) 大学自己点検評価委員会 審議・承認
- (10) 大学運営会議 報告

令和4年度教職課程自己点検評価報告書公表

以上

V 現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者： 学校法人 光華女子学園					
大学・学部名： 京都光華女子大学 こども教育学部 健康科学部 京都光華女子大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻					
学科やコースの名称（必要な場合）					
1 卒業（修了）者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 令和3年度卒業（修了）者数	学 部	277			
	大学院	6			
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	学 部	258			
	大学院	4			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （幼稚園・小学校・中学校・高等学校・栄養・養護の合計数） * 複数免許状取得者も1と数える	学 部	91			
	大学院	0			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （小学校・中学校・高等学校・栄養・養護の合計数） * 正規採用＋臨時的任用の合計数	学 部	17			
	大学院	0			
④のうち、正規採用者数		8	8		
④のうち、臨時的任用者数		9	9		
2 教員組織					
教員数	教授	准教授	講師	助教	計
学部（こども教育）	8	7	2	0	17
学部（健康科学）	17	11	10	8	46
大学院（臨床心理学専攻）	5	3	1	0	9